

～上伊那こども科学工作教室に参加しました！～



力借りながらロボット完成

ロボットの組み立てに挑戦する参加児童とアドバイザーを送る高校生⑥



駒ヶ根で「子ども科学工作教室」

工作を通じてものづくりや科学の楽しさを感じてもらおう第25回上伊那子ども科学工作教室(同実行委員会主催)は31日、JR駒ヶ根駅前ビル・アルパで開いた。小学4～6年生90人が参加。組み立てとプログラミングが学べる工作キットを使い、高校生や製造業で働く大人たちの力を借りながらロボットを完成させた。

同事業には地元企業14社と

駒ヶ根工業高校(同市)、上伊那地域8市町村、広域連合が協力している。今年度は定員の2倍以上となる195人の応募があった。

会場では参加した児童たちは設計図を見ながら真剣な表情でロボットを組み立てた。高校生は優しく見守り、悩む様子に気付くと、アドバイスを送った。完成後はロボットを自在に動かす体験もし、児童たちはものづくりの楽しさに触れていた。

実行委員長を務めた征矢野泰士さん「サン工業」は「ものづくりに興味を持ってくれる子どもがたくさんいてくれることをうれしく思う。参加してくれた子どもたちが将来、日本や上伊那地域のものづくり産業を支える人材になってくれたら」と話した。

同日は参加企業と駒工生との交流会も行われた。就職を控える生徒たちは働くことの意義に理解を深め、参加企業は将来を担う生徒たちに期待を寄せた。

(野村知秀)